

# ① 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行く必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- **自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。** 家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ふなみ
(ユニット名)	1階ユニット
所在地 (県・市町村名)	秋田県北秋田市鷹巣字本屋敷114-3
記入者名 (管理者)	成田 啓悦
記入日	平成 21年 8月 1日

## 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	職員の異動もあったため、新たな理念の構築に取り組んでいきたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	社会福祉協議会として、法人全体で取り組んでいる。各地域で行う介護予防教室では、認知症高齢者への支援や、ホームの活動状況などを紹介している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全体で自己評価に取り組み、日常の取り組み内容の確認、気づきを話あっている。昨年度の評価結果、家族アンケート結果を運営者、他事業所にも報告し、改善策のアドバイスをもらっている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	日常の取り組み状況などを報告し、意見をいただいている。会議内容を、運営者、職員へ報告し、サービス向上につなげるようにしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市からは、電話や文書により、報告、指示をいただいている。行政制度にかかわる特別な問題がある時は、法人事務局を通し、話し合いの機会を設けている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	平成20年10月、市の障害者自立支援協議会の研修会に参加し、成年後見制度、権利擁護について学ぶ。事業所でも伝達勉強会を実施する。	○	現在は、必要な人がいないが、必要時には支援できるよう話し合っていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	平成21年3月、県の高齢者虐待防止研修会に参加し、事業所でも伝達勉強会を行い、個々の意識の統一に取り組んでいる。法人内でも、月1回の苦情解決会議で、ヒヤリハット報告書や、苦情相談受付内容を共有し、防止に取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用契約書、重要事項説明書に分かりやすく示し、十分に説明し、同意を得ている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常のコミュニケーションの中で、気軽に話せる雰囲気作りに努め、意見を聞き、日常の業務に取り入れている。特別な訴えがあるときは、落ち着いて話せるよう、居室や事務室などで1対1で話を十分に聞く場面を作っている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>受診報告や薬の変更など、状況変化時はその都度報告している。金銭管理は、毎月明細表を送付している。日常の暮らしぶりや、職員の異動などは、面会時や電話連絡時、お便りで報告している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常の面会時、ケアプラン説明時に生活に対する要望などを確認している。事業所独自のアンケート調査も行い意見を反映させている。 相談・苦情窓口を当事業所のほか、法人の第三者委員、市と県に設けている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回の法人内の管理者運営会議にて事業所内の意見や提案を示せる機会がある。 年1回の職員面接を、管理者を中心に行い、運営者に報告している。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状況、行事等に合わせ、勤務の時間帯をその都度変更し対応している。緊急時には、連絡網などで時間外出勤をお願いし対応している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は、事業所の質向上のため職員配置に十分考慮している。離職希望者とは、意見を聴く機会を設け、本人の望む職場環境となるよう努力している。 職員採用時は、現場の状況を踏まえ、面接を行った上で、新任職員研修を必ず行っている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み  運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人、事業所それぞれの研修計画を立て、実施している。認知症介護に関する外部研修を段階に応じて受講している。		
20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での各地域にある事業所間との職員相互訪問の研修会を実施し、アンケートや意見をまとめ、質の向上に努めている。	○	今後も、グループホーム間、他事業所間との相互研修を行い、質の向上に努めたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	負担とならない勤務体制づくりに努めている。日頃より、職務上の悩みなどを聴きいれ、解消できるように努めている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日常の勤務状況の報告と、面接などにより、働きやすい環境づくりのための要望などを可能な限り実現できるよう努めている。 各資格取得の促進をし、条件を満たしている臨時、パート職員には、正職員登用試験を実施している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用開始前には、本人と面接した上で、本人や家族から要望などを聴く機会をつくっている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	担当ケアマネジャーを通じ、基本的な情報交換を行った上で、家族とお話しする機会を設けている。	
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の状況を含め、担当ケアマネジャーと十分に話し合っている。	
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	事前の施設内見学を勧め、概要の説明を行っている。 本人、家族から情報をもらいながら、馴染んでいただけるよう、初期のケアプランを立てた上で、職員同士の統一した対応に取り組んでいる。	○  利用希望者本人への施設見学を勧め、馴染んでいただきながら、安心感と納得へつなげていく。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人ひとりの得意分野を見つけ、日常生活で発揮できる場面づくりを心がけている。食事づくりや家事、日常の中で手伝っていただける場面をつくり、感謝の言葉を忘れず、意欲の維持につなげている。	○  利用者が中心に教える立場に立てるような活動の計画。(縄ない、郷土料理づくりなど)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	支援の方法を家族と話し合いながら、家族と一緒に主治医の話を聞く機会を設けたり、家族との外出や帰宅などもケアプランに取り入れ、家族とのつながりを大切にしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	一人ひとりの家族関係に配慮し、支援をすすめている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	医療機関（主治医）の継続利用や行きつけの理美容院の利用を支援している。 家族以外にも、近所の顔見知りの方や、親戚の方の面会もある。		
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事やだんらん時の座席の位置に配慮し、職員は見守りながら、利用者同士のコミュニケーションを大切にしている。また、利用者同士で、落ち着かれない利用者の話し相手になってくれたり、一緒に余暇活動を教え合ったりしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院生活が長くなったり、家庭の事情でサービス利用が終了しても、居宅介護支援事業所と連携をとり、退所後の生活環境を家族と話し合い、必要なサービス利用などにつなげている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中で、一人ひとりの状況に合わせ希望や訴えを把握するよう努めている。困難な場合は、家族からの情報や生活史をもとに本人の意向を検討している。一人ひとりの意向に合わせたケアプランとなっている。	
34	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、担当ケアマネジャーからの情報をもとに、一人ひとりの生活歴、生活環境や既往歴などの基本情報をまとめ、より良いケアの手がかりとなるよう把握に努めている。	
35	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの一日ごとの経過記録を作成し、日常の変化や、特記事項を記録しながら、現状を把握し、心身の変化を見逃さないように努めている。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意向を確認しながら介護計画を作成した上で、日常のケアに対する意見やアイデアを職員同士でカンファレンスノートなどを活用しながら話し合い、介護計画に反映させている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月毎の評価、見直しを行っているが、定期的に支援経過を記録し、必要時には新たに計画の作成を行い、家族と話し合っている。	



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別の経過記録に、具体的な様子や場面、ケア者の気づいた事を記入するようにはしており、必要時にはカンファレンスノートを活用し、実践と結果を掘り下げている。また、1ヶ月毎の利用者の動向を支援経過に記入し、介護計画の見直しに活用している。	○	ケア者の気づきやアイデアをより多く出してもらえよう、働きかけていく。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院、自宅などへの送迎、入院時の必要物品などの準備、日用品の準備、介護保険更新の手続きなど、本人や家族の状況に合わせ、柔軟な対応に努めている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	地域の婦人会、老人クラブの方々の慰問、食材注文を通しての地元商店との関わり、避難訓練を通じた消防署との連携、町内会を通じ災害時などの協力体制、必要時には医療機関からの往診をお願いしている。		
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入退所時には担当ケアマネジャーやサービス事業所と連携をとり、利用者の生活に負担となる影響を及ぼさないよう支援している。本人や家族の意向や必要性があれば、居宅介護支援事業所や必要なサービス事業者との連携をとり、本人の状況に則したサービス利用を支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議での情報交換などで、必要時には、市の高齢福祉課や地域包括支援センターとの協働できる体制にある。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	○	<p>歯科医に関しては、本人および家族の了解のもとに、訪問歯科診療を受けており、利便性の確保ができています。(待ち時間などの利用者負担が軽減される)</p>
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>ターミナルに向けては、事業所の現状と主治医の方針を考慮しながら、今後さらに検討が必要と思われる。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	介護情報提供書類などをもとに、話し合いのもと、情報交換を行っている。移り住んだ後も、情報交換し、いつでも連絡できるようにしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	生活史をもとに、その人にとって伝わりやすい、なじんでいただける言葉かけ、対応を行っている。個人記録の取り扱いには、保管、持ち出しに十分気をつけている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常のコミュニケーション、生活の中で、思いや希望を聞きながら、自由に表現していただけるよう働きかけている。自分で決めて、納得していただけるよう説明している。		
52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の入浴や活動内容などをお知らせし、利用者の意向を伺いながら支援している。本人からの希望がある時は、可能な限りこたえている。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者、家族の希望される理美容院を利用し、顔なじみの所、なじみの髪型となるよう支援している。身だしなみは、なるべく本人に決めていただき、清潔さを保つ服装を心がけている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう「尊厳の保持」に配慮して支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失した時や、金銭に関するトラブル防止のため、ホームで金銭管理している。その人の思いに応じて、少額のお金を所持していただいている。お金の心配されている時は、いつでも本人に見せて預かっている事を説明し、買い物希望の時は、スタッフが付き添い支援している。		
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間行事の中に、季節ごとのドライブや見物を計画し、天候や体調を考慮した上で実施している。また、日常的に散歩や買い物、地域の行事や催し物に出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	いろいろな行事の情報を取り寄せ、利用者本人の楽しめそうな行事や場所への参加を促し、支援している。 家族との外出や外泊、旅行をされている方もいる。		
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があればいつでも電話をかけられるようにしており、能力に応じて、スタッフが番号を押し、本人に取り次いでいる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や親せき、知人などの訪問があり、ゆっくりとした時間を過ごせるよう、居室へ案内し、飲み物などを提供している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の身体拘束廃止マニュアルを定めており、事業所でも勉強会を行い、日常の業務で気をつけ合っている。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	夜間以外は玄関に鍵をかけず、自由に出入りされている。2階の階段出入り口には、危険防止のためチャイムを付け、見届け出来るようにしている。居室に鍵はついていない。	○	落ち着かれなかったり、外出の要望が強い場合は、スタッフが常に付き添い、行動を共にしている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日常の業務を分担し、利用者を見届け出来るところでの記録や、ケアに配慮している。夜間は、睡眠を妨げないように、定時の巡回とその都度のケアにあたっている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	その人の思い、能力に応じて、ハサミや裁縫針、工具を持っている人もいる。預かる場合は、保管場所を決め、いつでも渡せるようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	どんなに小さなことでも危険を予測される場合は、ヒヤリハット報告書にて対応防止策を話し合っている。 服薬や行方不明時の対応マニュアルを作成し、対応できるよう取り組んでいる。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	法人内で、救急救命講習を行い、全職員が受講している。今年度も9月に実施予定となっている。 事業所では、年間の内部勉強会に計画し、看護師を中心に実施していく。8月に予定している。	○	紙面マニュアルと実技を兼ね備えた勉強会を行っていく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、日中と夜間を想定した避難訓練を行っている。また、緊急連絡網を整備し、町内会の方や職員、関係部署にすぐに伝わるようにしている。 水害の避難勧告時には、夜間にほとんどの職員が集まり、避難場所へ避難支援出来た。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	病状の変化、身体・精神状態から起こりうるリスクをケアプラン評価やヒヤリハット報告などから説明し、本人の暮らしを第一に考え対策を話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定や排泄表を記入し、体調の変化や異変の発見に努めている。記録や申し送りや情報伝達し、受診など対応している。		
74	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からのお薬表を参考に、職員同士で話し合いながら、一人ひとりの内服薬について理解に努めている。看護師を中心に、状態の変化を主治医に報告し、薬の変更時には、申し送りノートなど活用し伝達している。		
75	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	1日1回は乳製品の摂取に努め、水分補給の促しをすすめている。また、散歩や体操など適度な運動に心がけている。 主治医から指示をもらい、適宜、下剤の調整を行っている。		
76	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯みがき、うがいの口腔ケアを励行し、就寝前は必ず入れ歯をはずし、入れ歯ケースに入れ、洗浄を行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立に基づき、一人ひとりの病歴、体格に合わせた摂取量となるよう、盛り付けなどで配慮している。毎食の摂取量を記録し、状況を把握している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	手洗い、うがいの励行、基本マニュアルに沿った消毒作業などを実行した上で、法人内の感染対策委員会で、最新のマニュアルを作成し、指示を仰いでいる。インフルエンザ予防接種は、時期に合わせて実施している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器乾燥機を使用しての毎食後の食器乾燥消毒、調理器具のハイター消毒、台所・冷蔵庫の消毒拭き掃除を行っている。毎日、使う分の食材搬入をお願いし、鮮度管理に努めている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	わかりやすいようにホーム名の大きな看板を設置し、玄関先のプランターにお花を植えたり、玄関には折り紙や飾り物を置き、明るさを保つようにしている。来訪者にすぐ対応できるように玄関のチャイムで気がつくようにしている。また、消毒液を置き感染症防止に努めている。	○	常に整理整頓を心がけ、来訪者に清潔感と居心地の良さを感じていただけるよう、取り組んでいく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音や照明、光などはその都度調整している。 季節ごとの貼り絵や、思い出の写真を飾り、楽しまれている。また、食事を楽しみにしている利用者も多く、食事メニューをホワイトボードに書き込むなどして、喜んで読まれている。	○	職員による会話のトーンや、大きな物音などで、利用者に不快な思いをさせないようにしていく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの配置をその都度考慮し、気の合う利用者同士が談話できたり、独りや少人数で安らげる場所も確保できるように努めている。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物や、家族で希望される ものを持ち込んでいただき、相談しながら居 室のレイアウトを行っている。不安や混乱を 招かないよう、一人ひとりに合わせた居室と なるよう心がけている。		
84	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	常に換気を行い、冷暖房の調節も、利用者 の意見を聞きながらこまめに行っている。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	建物内だけでなく、トイレ内、浴室内にも手す りを設置し、安全で自立した生活出来るよう考 慮している。階段が困難な方でも1階2階を行き 来できるようエレベーターが設置されている。 また、車いすや介護用ベッドなども準備し身体 機能に合わせた福祉用具の活用も行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	居室にはネームプレート、トイレもわかり やすいように表示し、その都度見て確認でき るよう配慮している。居室内には、見やすい 時計や暦を設置し、曜日や時間を把握し生活 できるようお願いしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	物干し台からの洗濯物取り込みや、プラン ターに植えている花への水やりを行っていた だいている。	○	以前はプランターでの野菜作りも取組ん でいたが、手入れが行き届かなく、現在は 行っていない。利用者と手軽に楽しめるよ うな園芸など考えていく。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ 食事作りや片付け、掃除や洗濯物たたみなど、日常生活の作業をできるだけお願いし、やりがいと活気を持っていただいている。
- ・ 毎月の行事や日常の活動の中で、外出の機会を多くし、ホームに閉じこもらない生活を心がけている。
- ・ 利用者の好みに応じた献立を作成し、地元の食材を活用した手作りの食事を提供している。
- ・ 食事会や面会時など、家族との交流の機会を大切にし、気軽に話し合える信頼関係づくりに努めている。
- ・ 館内の掃除や飾り物などで、明るく清潔感を保つように努めている。
- ・ 町中に立地しており、気軽にお店に出掛けたり、町内の行事に出掛けることができる。
- ・ 社会福祉協議会という母体を活かし、内部の各事業所との連携、交流ができる。また、地域福祉に関わる研修会の実施、法人内の看護師や介護支援専門員、介護職、事務職など幅広い専門職との連携により、幅広く安心できるサービスの提供ができる。